

略して
金トレ!

お金の
スタートレーニング☆

保護者向け お金のしつけ ガイドブック

※主に小学生のお子様がいる保護者を対象としています

「金トレ」のポイント一覧



子どもが理解したら
チェックしましょう！

お金の 仕組み



- ☑ 物やお金は、かぎりがあり、「かち」のある大切なもの
- ☐ お金は社会の中をぐるぐるとまわっている
- ☐ お金はためて、将来つかえる
- ☐ お店のものは、お金をはらって買う

働く・ お金をかせぐ



- ☐ 働いて、社会の役に立つとお金がもらえる
- ☐ 働くと、楽しいこと・大変なことがある
- ☐ 働いている人は、工夫や努力をしている
- ☐ 今できることをがんばって、将来の準備をしよう

上手に 使う・ためる



- ☐ 目標(やりたいこと・欲しいもの)を決めよう
- ☐ 買う前にしらべて、よく考えよう
- ☐ おこづかい帳やちよきん箱をつかってみよう
- ☐ 不良品に気をつけよう
- ☐ 買った後には、買い物のふりかえりをしよう

危険を さける



- ☐ ルールと約束をまもる、悪いことはしない
- ☐ お友だちとお金のかしかりをしない
- ☐ お友だちにおごらない・おごられない
- ☐ きけんを知って、トラブルをさける
- ☐ 困ったら、相談する(大人に)

「金トレ」の上級編



小学校高学年になったら、
こちらの上級編！
お金のことを教える参考にしてください。

お金の 仕組み



- ☑ 企業、銀行、政府の役割
- ☐ 税金を払い、政府が私たちの生活を支える
- ☐ 金融・経済の基本を知る(子ども用ワークブックの6ページの「しらべるテーマリスト」)

働く・ お金をかせぐ



- ☐ 自分の長所・短所を考え、自分でつきたい職業を考える
- ☐ 働くことの大切さを知る
- ☐ 地域で働いている人や会社の夢、努力、工夫を知る

上手に 使う・ためる



- ☐ 「必要なもの」と「ほしいもの」はちがう
- ☐ 未来のために、計画的にお金をためる
- ☐ 自分なりの考え方で、お金の使い方を決める
- ☐ お金を使う時は、情報を収集し、より良く選ぶ
- ☐ 安全なもの・地球環境にいいものなどを買う

危険を さける



- ☐ お金のトラブルと、家族、他人への影響を知る
- ☐ どのような法律があるかを知って、法律を守る
- ☐ 大人になってお金のトラブルがおこった時は、消費生活センターなどに相談できる
- ☐ アクシデントにそなえる保険という仕組みを知る

お金の教育のポイント

子どもが将来、自信と希望をもって、安定的な生活を送ることができるよう、以下の3つを意識してみましょう。

「子ども自身が考える・やってみる」を
大切にする

お金のことは、「**練習**」が大切です。
少しずつ子ども自身に考えさせたり、やらせてみましょう。
今のうちに失敗することが、将来の大きな失敗を防ぎます。

希望をもって、「未来」を見通す

お金のことは、「**未来を見通す力**」がとても大切です。
「1年後は?」「大人になったら・・・」と、希望を持って子どもたちに
問いかけてみると、子どもの視野が広がるでしょう。

「社会」「他の人」という視点で伝える

お金は、「**社会**」とつながっています。
「働く」ことも「お金を使う」ことも、社会に影響します。
自分だけのことでなく、「社会」や「他の人」に目を向けるような話を
してみましょう。

たとえば、Aさんの場合・・・

子どもはまだ小1で計画的におこづかいを使うのは難しいので、定期的にはあげていません。
ただ、お金を使う練習として、旅行など遊びに行く時にお金を渡して、「今日は何を買うの?」「何に使うの?」と会話をしています。
お菓子ばかりに使ってしまう時もありますが、しからずに他にもよい使い方がないかを一緒に考えています。



たとえば、Bさんの場合・・・

子どもが、貯金箱でおこづかいを貯めているので、「この調子だと卒業までにはどれくらい貯まるかな?」と話をしています。
子どもが、実現が難しい夢や欲しいものを言い出しても、「どうしたら実現できる?」とまずは子どもに考えさせ、希望を持てるようにしています。



たとえば、Cさんの場合・・・

スーパーで買い物をした時は「農家さんが野菜を作ってくれているんだよ」という話をしたり、「おこづかいを募金することで困っている人を助けることもできるよ」という話をしたりしています。
社会とのつながりを伝えることで、自分だけのことを考えるのではなく、社会や他の人にも目を向けられるような意欲的な子に育ててほしいと思います。



お金の教育の事例

おうちでお金の教育をする方法を、紹介します！
まずは、小学生向けワークブックを親子で見てください。
そして、生活の中でお金の教育をしましょう。

おこづかい

お年玉を使うときには、何がほしいのか、一緒に考えたり、調べたりしながら、買うものを決めます。
無駄遣いも防げると、子どもと楽しく話す話題にもなります。自分で全部使ってしまわないように、半分は強制的に貯めています。

月に一回おこづかいをあげています。
おこづかいをあげた日に、いつ何に使いたいかを一緒に計画を立てます。おこづかい帳のメモ欄に書いておくと、便利です。

おこづかい帳がなかなか続かないので、1ヶ月間きちんとおこづかい帳をつけたら、翌月のおこづかいをあげるルールにしています。
他にも、足らなくなっても追加はないこと、500円以上のものを買う時は相談することなど、ルールを決めています。

子どもが自分で、貯金箱をペットボトルで手作りしました。自分で作ったためか、気に入って、貯蓄に対して前向きになったみたいです。ペットボトルなので、中のお金がよく見えるので、イメージもわかりやすいです。

買い物

食料品の買い物と一緒にいって、「じゃがいもは150円だね」「2000円払うよ」などおしゃべりしながら、金銭感覚を身につけられるようにしています。
支払う時に、子どもにお金を出してもらったりします。
大きくなったらお使いもしてもらいたいです。

お金の感覚を身につけてもらえるように、子どものために買うもの(洋服や学校のものなど)は、いくらお金がかかったのか分かるように一緒に買い物に行くようにしています。



わがやの「お金のルール」「教育方法」を
考えてみましょう！

きけんをさける

子ども用ワークブック12ページのお金のトラブルの話は、ときどき家族で話すようにしています。気をつけていても、忘れていってしまうからです。

自転車で人をケガさせたり、友だちをいじめた人が多額の損害賠償を請求された話があります。人を傷つけることの責任の重さを感じてもらい、注意をするように伝えています。



子どもには困ったことがあったら相談するように言っています。大きくなってくると、なかなか言えないことも出てくるので、子どもが、学校などで困ったことにあるかないか、変わった様子はないか注意してみるようにしています。

その他

普段の生活では、親や学校の先生しか大人と会う機会がありません。なので、どんな職業があるかを図書館で調べています。

高学年になってからは、エコに関心がでてきたみたいです。日用品を買う時に、一緒にリサイクル商品かどうかをチェックしながら、買い物をしています。

子どもは、親のお金のつかい方を見て、大きくなっていくので、自分自身がむだづかいしないように、気をつけています。





本ガイドは、情報の提供を目的とするものであり、内容について当行がいかなる保証を行うものではありません。
掲載内容については細心の注意を払っていますが、掲載された情報の誤りなどによって生じた損失等に関しまして、当行は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。

【お問い合わせ】

info_csr@tokyostarbank.co.jp